産経 health

メタボリックシンドローム・ネット

メタボリックシンドロームPRO

小児肥満ネット

> ニッポンの食、がんばれ!

產経健康倶楽部



毎日の生活に役立つ情報をお届けする「産経健康倶楽部」へようこそ! このページでは、登録された会員さまだけの注目情報を定期的に掲載します。



🔁 食がカラダを変える! Special 対談

いのちに向き合う医療とは

vol.03 未病を治す「医食農同源」 自然との共生を(下)

毎日の食生活から健康を考えるキャンペーン「食がカラダを変える!」の対談企画第2弾の続きをお届けします。順天堂大学名誉 教授で消化器内科が専門の佐藤信紘先生と、未病医学の権威・天野暁先生が熱く語る「医食農同源」とは・・・。コーディネーターは 引き続き、神奈川県知事の黒岩祐治氏です。



INDEX

1 未病は食で治す

② 医療のベースに必要な「哲学」とは

3 薬茶、薬湯で正気を補う

未病は食で治す

黒岩 前回、西洋医学と東洋医学における融合の必要性が唱えられているにもかかわらず、日本ではなかなか進まない・・・という 話がありました。西洋医学が後から伝えられたのは、中国も同じです。でも中国では、伝統的な漢方医学(中医学)もきちんと受け継がれているんですよね。

天野 もし私ががんになったら、中国に帰るかもしれません。なぜかというと、中国では純粋な西洋医学や、純粋な漢方医学、さらには中西結合の医学もあります。中西どちらの医学を学んだ学生も、卒業後プラス何年かは別の医学を勉強して、中西結合の方法を使って診療を行います。例えば、がんも早期なら手術をします。放射線も使います。でもそのときに、体のバランスを診ることは忘れません。

放射線や抗がん剤、抗炎症剤、抗うつ剤など、体にとって悪いものを取り除く去邪法、すなわち「瀉法(しゃほう)」は、西洋医学が得意です。漢方の世界では、弱った正気を補う治療法、すなわち「補法」も得意分野です。その人の体質に合わせて、バランスを整えるのです。黒岩さんのお父さんのケースは大変理解しやすいでしょう。高齢者のがんは極端に体力が落ちます。放射線や抗がん剤に耐えられない場合、漢方では低いレベルでもいいので、その人なりに生活できるように補法で免疫力や体力をつけるのです。

中国では現在でも、西洋医学と漢方医学を併用しています。抗がん剤を使いながら、食事療法をして体力をアップし、抗がん剤の効き目も上げるのです。抗がん剤が使えない状態の患者さんには、漢方医学で全体を支えていきます。このように誰にでも3つの選択肢があるのです。とトはいずれ死んでいきます。発病して死ぬまでの間をどう生きていくか、自らがその3つの中から選択できるのです。瀉法と補法の両方を使うのが、全人医療ではないでしょうか。いつ、どの段階で、どのバランスで使うかは個人によって違いますが。

- **黒岩** 中西結合のベースには、医食農同源の考え方が必要だという話もありました。
- 天野 私たちが求めるのは「未病を治すため」の食です。未病とは病気の前段階、完成した病理状態ではなく未完成の段階なので、薬では治らない時期なのです。そこを食で改善するのです。そのためには、未病を診断する基準が必要です。ベースは東洋医学の瘀血(おけつ)の考え方です。血液の循環に異常がある状態をこう呼んでいます。個々の状態を知る診断に、西洋医学の診断をプラスすることで、独自の未病診断が必要ではないかと考えています。

例えば、レベル3になったら病気に近いから病院に行く。でも1や2の段階なら、未病食で改善する。基本は食、未病を治す食です。未病の治療は、体質や年齢によってアプローチの仕方が違います。いわゆる「同病異治」「異病同治」という考え方を導入した未病の診断基準がないと、食の在り方は実践しにくいのではないかと思います。

- **黒岩** 同病異治や異病同治は、漢方医学の考え方。同じ診断名でも人によって違う薬が処方されたり、異なった診断名でも同じ薬が処方されたりすることですね。
- **天野** 異病同治の基本は医食同源です。例えば西洋医学において、中性脂肪が高いこととコレステロールが高いことは"異病"と みなされます。でも漢方医学において、アプローチの方法はひとつなのです。

4 前のページ1 2 3 次のページ▶



☑ お問い合わせ ☑ サイトマップ ☑ ブライバシーボリシー

Co